

乳がん看護認定看護師の活動について

福井大学医学部附属病院 浦井 真友美

乳がん認定看護師とは？

乳がんにかかる人の数は年々増加しており、芸能人の乳がん患者が自分の病気について語ることも増えてきています。多くの方は、がんと聞いただけでも不安になります。その上、見聞きする情報によって、患者さんの多くは混乱しさらに不安になっているのではないのでしょうか。

そのような不安や疑問に対応するために育成されたのが、乳がん治療に関しての熟練した看護技術と知識を持った乳がん看護認定看護師です。

目指したきっかけ

私は、外科病棟で勤務していた時に、多岐にわたる治療の中で混乱して不安になる乳がんの患者さんに接する中で、乳がんについての知識を習得し、患者さんの生活や治療を支えたいと考えました。そこで、乳がん看護認定看護師の資格を取得し、現在は院内のがん診療推進センターで勤務し相談やカウンセリングを主な仕事として、乳がん患者さんの不安や疑問への対応を行っています。

仕事の内容や心がけていること

乳がんの治療は選択肢が多く、患者さんによって治療の組み合わせが違っていたり、使用する薬剤の種類も様々であったりします。そのため患者さんにとっては、理解ができず、混乱してしまうこともしばしばあります。そのような場合、私たち乳がん看護認定看護師が医師の説明をよりわかりやすく説明したり、精神的不安、薬の副作用など生活で困ることがないかなどを聞いたりしながら、治療について一緒に考えるように心がけています。手術といっても、単に乳がんを切除するだけでなく、最近では乳房の再建も増えており、切除後の状態を説明して再建術への理解を促すことも行っています。また、術後のリハビリについては、理学療法士と連携し、退院後の生活を見据えて運動療法を検討するなどの対応を行っています。さらに、術後にリンパ浮腫を発症した患者さんに対応するために、リンパ浮腫セラピストとともに「リンパ浮腫ケア外来」を開設し、院内だけでなく院外のリンパ浮腫で困っている患者さんへの対応も行っています。リンパ浮腫でお困りの方は、ぜひご相談ください。

乳がんの遺伝カウンセリング

当院で行っている乳がん診療での特徴的なことは、乳がんの遺伝カウンセリングです。乳がんの5～10%は遺伝性であるといわれており、遺伝的に乳がんを発症しやすい体質を持っている方がいると考えられています。そのような遺伝性の乳がんについての理解を促し、可能性が高い患者さんへは遺伝子検査について医師と連携して情報提供し、疑問や不安にたいしてのサポートを行っています。

乳がん患者さんへのメッセージ

患者さんの悩みは様々であり、患者さん本人だけでなくご家族にとっても辛く不安なことだと思えます。私たち乳がん看護認定看護師は、少しでも患者さん・ご家族の不安が軽くなるようにお手伝いをしていきたいと考えています。乳がんの早期発見のためにピンクリボンの会の活動を通して、検診への呼びかけも行っていきたいと思えます。また、治療を受ける患者さんに対し、これからも様々な情報提供や生活支援への活動を行っていきます。いつでもご相談ください。